

1. 事務局からのお知らせ

(1) 事務局の連絡先について

1997年4月から事務局の仕事を担当されていた宮下明信氏が昨年12月に急逝されました。氏を失った私たちは改めて氏が日本フランス語学会のために果たされていた役割の大きさを思い知りました。氏が心ならずも残された学会関係の文書等から学会事務の現状を把握し直すまで、ほぼ2カ月を要しました。ご自分の大学の仕事だけでも席の温まる暇のなかった氏に、さらに大きな負担をおかけしたのではないかと、慚愧の念におそわれながらの残務整理でした。氏のなされた貢献にもう一度感謝しつつ、ご冥福をお祈りいたします。

上のような事情を受けて、京都産業大学の平塚徹氏に新たに事務局の仕事に携わっていただくことになりました。平塚氏と事務局3年目の荒井文雄の二人で事務を担当していきます。会員のみなさまの御協力よろしくお願いいたします。

事務局の住所等は以下の通りです。今年から電子メールでの連絡を受け付けます。

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学

外国語教育研究センター事務室内

日本フランス語学会事務局

Fax. 075-705-1887 / Tel. 075-705-1826 (荒井)

e-mail araiアットマークcc.kyoto-su.ac.jp (荒井)

hiratukaアットマークcc.kyoto-su.ac.jp (平塚)

(電話は荒井の研究室に直通です。不在の時間も多いため、ファックスまたは電子メールでの連絡のほうが確実かと思われます。fax番号が変更になりましたのでご注意ねがいます。)

(2) 会費の納入について

本年度の会費をまだ納入されてない方は、ご送金くださいますようお願いいたします。個人会費の送金は郵便振替で、下記の口座に振り込みをお願いしています。

郵便振替口座番号 00160-6-56308

会費未納の方には学会誌『フランス語学研究』とともに、請求書をお送りしますが、2年以上会費を滞納された方には学会誌はお送りしていません。また、4年間会費納入のない方は、退会扱いとなりますのでご注意ください。なお、『フランス語学研究』のバックナンバー購入ご希望の方は、フランス図書が取扱業者になっておりますのでそちらにお問い合わせ下さい。

(3) 住所変更などについて

住所(連絡先)・所属機関等の変更がある場合は、ご面倒でもなるべく早く事務局にお知らせください。

住所変更については事務局の平塚(hiratukaアットマークcc.kyoto-su.ac.jp)が担当しています。

(4) 例会案内通知について

例会通知は、はがきを送って下さった方にお送りしています。通知をご希望の方は、官製はがきにご自分の住所・氏名を表書きしたものを10枚ほど上記事務局までお送り下さい。なお、ご自分の宛名には「○○○行」とせず、「○○○様」として下さい。発送の際の手間を軽減するためです。

(5) 編集委員の交代について

本年度は、次の方が編集委員を辞任しました。

佐藤 正明 (東北大学)

東郷 雄二 (京都大学)

また、次の方が編集委員に新任されました。

赤羽 研三（防衛大学校）
井元 秀剛（大阪大学）
小熊 和郎（西南学院大学）
春木 仁孝（大阪大学）
前島 和也（慶應義塾大学）

(6) 論文寄贈その他のお願い

フランス語学に関するもので、最近（過去3～4年）発表された論文がございましたら、抜き刷りを事務局までお送り下さい。『フランス語学研究』の「寄贈論文」欄にタイトルを掲載します。また、同じく過去3～4年に発表された修士論文についても、執筆者・タイトル・大学名（提出先）・年度をお知らせください。もちろん、関係者の方からの連絡でも結構です。ご協力をお願いします。
(荒井文雄)

2. 例会案内

次回以降の例会の予定は以下のとおりです（題名等は変更の可能性があります）。11月は京都大学、それ以外は青山学院大学（原則として5号館530教室）で午後3時～6時の開催となります。

7月3日（土）（特別例会）

Claire Blanche-Benveniste : "Deux types de passifs avec agent, dans les productions de français parlé"

7月10日（土）（第179回例会）

細野真理子「現代フランス語の条件法現在について」

三藤 博「イベント意味論によるフランス語テンス・アスペクト体系の分析—半過去形の位置づけを中心として」

9月25日（土）（第180回例会）

戸部 篤「使役構文について」

髭 郁彦「ランガージュ、対話、ディスクールの動き：テキストの中の意味の問題」

10月23日（土）（第181回例会）

福島 祥行「冠詞について」

平塚 徹「疑問詞疑問文における2つの倒置について」

11月20日（土）（第182回例会）**京都で開催**

長沼圭一：「題未定」

阿部 宏「plus ou moins の否定性について」

12月18日（土）（第183回例会）

東郷雄二「題未定」

発表者1名未定

事務局に葉書をお預けになった方には例会案内の通知を発送していますが、それ以外に『月刊言語』（大修館）、『ふらんす』（白水社）、メーリングリスト frenchling と、学会ホームページにも掲載されますので、ご参照ください。

例会発表希望者は雑誌案内、葉書案内に必要ですので、発表の3ヶ月くらい前にタイトル（仮題でも可）をお知らせ下さい。ハンドアウトは通常の例会では50部程度、文学会と同時期の例会、および12月の例会では60部程度ご準備ください。

2000年度例会発表者を募集しています。希望者はお近くの編集委員、運営委員、または事務局までお申し出ください。
(大久保伸子)

3. 運営・企画担当委員より

運営・企画担当委員は通常の例会発表、海外の研究者を招いての特別発表、シンポジウム、パネルディスカッションなどをオーガナイズしています。関東の運営・企画担当は1998年度より大久保とDhorne が担当しております。関西は1999年度から大木と木内が担当することになりました。

昨年度は5月例会で、高等研究院の Irene Tamba 氏を迎えて、France Dhorne 氏との共同発表が行われました。また11月には Universite d'Amiens の Dominique Maingueneau 氏の講演会を青山学院大学・日本フランス語学会共催で催しました。

昨年日本フランス文学会春季大会（成城大学）の折りには、関東側運営委員の企画でシンポジウム「メタファーをめぐる諸問題」が開催されました。パネリストのフランス詩学、フランス語学、認知言語学の研究者間で活発な議論が行われ、会員以外の方も含めて沢山の参加をいただきました。

今年度のシンポジウムとしては、「フランス語学とコーパス研究」（関西側企画）というテーマで現在準備が進められています。

その他の例会については、昨年度については『フランス語学研究』の「例会案内」、今年度については上記の「例会案内」をご覧ください。また学会運営の方法についてご意見や提言のある方は、学会のホームページまたはお近くの編集委員にお知らせ下さい（編集委員のメンバーは『フランス語学研究』巻末、およびフランス語学会のホームページをご参照下さい）。

来年度も、例会に加えて、シンポジウム、また共通テーマによる発表、海外の研究者を招いての特別発表などを企画予定です。アイデアをお持ちの方は運営委員にご連絡ください。今後とも会員の皆様の例会への積極的な参加をよろしくお願ひします。

(大久保伸子)

4. 編集責任者だより

このニューズレターをお読みの方は、できあがったばかりの『フランス語学研究』第33号をもう手にしておられることと思います。今度の号の出来映えはいかがでしょうか。今年も無事に雑誌を皆様のお手元に届けることができ、安堵しています。

編集委員会では、会員の皆様に役立つ情報を盛り込むことを以前から心がけています。今年号では、フランスで出版された新刊書の紹介がいつになく多く、また入門書の紹介がある点が特色でしょうか。

歴代の編集責任者の方々が、編集作業の手順を定めて、マニュアル化してくださっていましたので、大船に乗った心地で作業を進めることができました。それでも編集作業が大詰めに近づいて、印刷所と校正刷を頻りにやりとりするようになると、足繁く郵便局に通いました。なぜか印刷所から校正が届くのが金曜日で、発送するのが土曜日ということがよくありました。土曜・日曜は区の中央郵便局でないと開いていないのですが、たまたま私の住居から500mの所に中央郵便局があり幸いました。

全体として作業がスムーズに進んだとはいえ、苦労性の私は、「校正を頼んだ人が急に渡仏でもして校正刷りが店晒しになったらどうしよう」とか、「郵便が事故で紛失したらどうしよう」などと、心配の種は絶えないのでした。

編集作業が定型化すると、作業は楽になります。しかし、その反面、雑誌の内容が固定化することもまた事実です。編集に携わる者としては、ときどきは内容を刷新するアイデアを出すこともまた必要かなと感じた次第です。会員の皆様からも、「このような記事があってほしい」とか「特集を組んでほしい」などといったご要望があれば、また雑誌も変わって行くことでしょう。どうぞご意見をお寄せください。

(東郷雄二)

☆フランス語学が研究できる大学（院）

このコーナーでは、国内の大学・大学院で、フランス語学が研究できるところを順次紹介しています。今回は東京外国語大学と愛知県立大学です。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

東京外国語大学外国語学部 大学院地域文化研究科

フランス語は26専攻言語の一つですが、フランス語学関連は次の通りです。

学部：「欧米第二課程」でフランス語を専攻し、「言語・情報」コースで卒論を書きます。

フランス語専攻のスタッフとしては、小野正敦（語彙・文法論、機能音韻論）、敦賀陽一郎（機能統辞論、語彙・文法論）、川口裕司（古フランス語、フランス語方言学、機能音韻論）、言語学には富盛伸夫（ロマンス諸語研究）がいます。本年度開講のフランス語学の主な講義は、小野「現代フランス語の複文構造」、敦賀「フランス語動詞構文論」、川口「北フランス諸方言研究序説」、南館英孝（非常勤）「フランス語学の基本問題」、鳥居正文（非常勤）「フランス語史概説」、尾形こづえ（非常勤）「フランス語構文の基本的成り立ち」です。「言語・情報」コースでは日本語も含む諸言語の研究者が50名程開講しています。

大学院前期（修士）：ヨーロッパ第二専攻・「言語文化」コースでフランス語学を専攻します。「国際交流」コースで広域研究も可能です。フランス語専攻は小野、敦賀、川口が、広域研究は富盛が主に論文指導をします。一般言語学、フランス語学で30単位の科目を履修しつつ修士論文を執筆します。

大学院後期（博士）：ヨーロッパ第二でフランス語学を専攻し博士論文を執筆します。広域研究も可能です。後期には付属の「アジア・アフリカ言語文化研究所」も参加して専攻言語数は更に増えます。博士では論文執筆を重視して履修単位は12単位にしてあります。進級指導は懇切丁寧で、2年間での博士号取得も可能です。

修士の入試は1月末から2月に筆記と面接、博士は9月末に筆記、2月に修士論文審査、面接です。（入試日程は変更がありうるので確認のこと。）過去の出題問題は参照出来ます（入試係 TEL. 03-5974-3509）。より詳しい情報は大学院係で得られます（TEL. 03-5974-3193）。

2000年秋に大学は府中の新校舎に移転しますが、1873年の建学以来127年になります。フランス語専攻へ内外の意欲的學生が集まることを大いに歓迎します。

（敦賀陽一郎）

~~~~~

## 愛知県立大学大学院 国際文化研究科国際文化専攻

1998年に文学部および外国語学部を基礎として設立され(修士課程のみ)、日本文化と欧米文化、2類の専門科目が置かれている。後者は英米文化とロマンス系文化の科目群を含み、フランス語学に関する講義は「フランス語学」（4単位、1講義）、「ロマンス語学」（2単位）である。言語研究の講義でロマンス系文化科目群に属するものは、他に「スペイン語学」がある。専門科目全体で20単位以上の修得が義務づけられている。

フランス語学の担当者は『狐物語』の研究で知られている鈴木覚氏で、ロマンス語学担当の矢島猷三氏と共に特にフランス語の通時研究の指導を受けることができる。古い文献の研究を志向する人には大学図書館の新村文庫が役立つであろう（総冊数約820、内フランス語学412、言語学・ロマンス語学174）。

なお、学部での講義編成はフランス語の実際的知識を豊かにすることができるように配慮されており、この面に力を入れたい人はフランス人専任教員2名によるトレーニングのクラス等が利用できる。

学生募集は1月、入学試験は2月に行われる。

問い合わせ先：

480-1198 愛知県長久手町大字熊張字茨廻間 1522

愛知県立大学学生課 電話：0561-64-1111

（林 迪義）

## ☆研究会案内

学会の例会以外の研究会の案内です。

~~~~~

関西フランス語学研究会

毎回20人前後の出席者がつどうこの研究会は、纏まった発表からまだアイデア段階の発表まで、さまざまな発表を気軽に発表できる場です。毎年新しく参加するメンバーの数も増え、夏休みを除きほぼ毎月、おおむね第三土曜日に大阪日仏センターで開催されています。ここ一年間の発表の跡をたどってみますと、

1998/5/23 小田涼（京都大学院生）

「フランス語のコピュラ文について — 属詞位置の代名詞・固有名詞の機能をめぐって —

」
1998/7/25 林 博司 (神戸大学)

「二次叙述と拡大与格」

1998/11/14 内田充美 (大阪大学院生)

「因果事態連鎖と分離現在分詞構文」

1998/12/26 武本雅嗣 (山口大学)

「概念化と構文拡張 — 中心的与格構文から辺的与格構文へ —」

1999/1/23 Jean-Luc Azra (大阪大学)

「Difficulte posees par l'utilisation du "jugement de grammaticalite"」

1999/2/20 春木仁孝 (大阪大学)

「再帰用法から再帰構文を考える」

1999/3/27 山田秀隆 (関西学院大学院生)

「代名動詞の中立的用法について」

1999/4/14 曾我祐典 (関西学院大学)

「douter と se+douter」

研究発表ばかりではなく、さまざまな情報交換や懇親の場としても機能しているこの会への参加は、もちろん自由です。お気軽に足をおはこびください。

この研究会での発表なさりさい方がいらっしゃいましたら、木内良行 (大阪外国語大学: kinouchi@post01.osaka-gaidai.ac.jp) もしくは福島祥行 (大阪市立大学: fukushim@lit.osaka-cu.ac.jp) までご連絡ください。なお、例会案内は必ず frenchling で流れますが、ご希望の方には、葉書でのご案内も差し上げております。

(福島祥行)

~~~~~

## フランス語学を一緒に勉強する会 (関東)

原則として第2土曜日に、慶應義塾大学で催される勉強会ですが、1998年4月から1999年4月までの発表は以下の通りでした。

98年4月18日 中尾和美 (東京外国語大学DC)

「前置詞と冠詞の省略」

6月13日 Irene Tamba (EHESS)

「Quand et comment compare-t-on deux langues?」

7月11日 戸部篤 (筑波大学DC)

「使役構文について」

9月19日 細谷真理子 (筑波大学DC)

「条件法 (現在) の語用論的分析」

10月3日 佐藤淳一 (東京家政学院筑波女子大学非常勤講師)

「不定詞と que 節の交替について」

11月14日 Maingueneau 氏の特別例会に振り替え

12月12日 川口順二 (応義塾大学)

「動物の名前からモノの名前へ」

99年4月17日 渡辺淳也（日本学術振興会特別研究員）

「他者の言説を表す条件法」

1月から3月、および仏語仏文学会が語学会例会と同月にある年の5月は多くの場合、休会になります。発表は完成度の高いものとは限らず、まだアイデア段階のテーマについて参加者全員が時間をかけて一緒に考えていくという点が、この会の特色といえるでしょう。

今回は6月12日に奥田智樹さん（名古屋大学）の発表「falloir について」（慶応義塾大学三田キャンパス、大学院棟312教室にて、3時から6時）が予定されています。興味のある方は是非ご参加ください。

（世話人：藤田知子 大久保伸子 川口順二）

## 海外大学言語学事情

### Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales

（パリ社会科学高等研究院）

同じ名前の研究機関がマルセイユなどにもあるが、ここではパリ校に限って述べる。社会科学と言うより、いわゆる人文科学系の諸分野の著名な研究者が名を連ねる高等研究機関で、大学とは独立しているが、*maitrise* にあたる *diplome de l'ecole* という学位に始まり、DEA、*doctorat* と学位取得のコースがある。パリ市内の他の大学に比べて特に外国人が多いことも特色のひとつである。研究施設と教育施設が同じ通りの少し離れたところに別々に建っているが、前者 (54 bd. Raspail) の2階にある図書館は、特に言語学系の蔵書が充実していることで知られている（ただし、職員・学生、その他関係者のみの利用に限られている）。言語学やフランス語学を研究するためには *Sciences du langage* の研究科で上記の各コースに入ることができる。現在この研究科長は日本研究家としても知られる Irene Tamba で、研究指導教官としては他に Anscombe、Encreve、AJayez など。重鎮の Ducrot は現在も大教室でセミナーを続けているが、すでに定年を過ぎており、新しい学生はとっていない。指導教官によらず、一般に学生はかなり自由な研究をすることができ、DEA などの単位取得も容易であるが、*these* の準備には、学生自らがしっかりと計画を立て、積極的に教官の指導を仰いでいく必要があるだろう。

（大久保朝憲）

## ♪♪学会ホームページ開設のお知らせ♪♪

この度、待望の日本フランス語学会の公式ホームページを開設しました!! URLは次のとおりです。

<http://lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp/belf/home.html>

世の中はインターネットの時代、学会や研究会も、ホームページを立ち上げて、情報発信するところが急速に増えてきました。本学会でもホームページを作ってはという声は以前からありましたが、ようやく立ち上げる運びとなりました。

このページには、毎月の例会案内、『フランス語学研究』の過去の号の目次、海外雑誌文献のアーカイブなどが掲載されています。しかしながら、いかんせん出来ばかりなので、まだまだ内容が不足しています。今後一層充実していく予定ですので、内容にご意見のある方は、どうぞお寄せください。内容は日々更新していますので、時々どうぞ見てください。(T.Y.)

## 編集後記

今年も日本フランス語学会の『ニューズレター』第7号を無事お届けすることができました。このニューズレターは編集委員会と会員の皆様をつなぐ掛け橋となるものです。内容についてご意見などがありましたら、最寄りの編集委員までお寄せください。今後とも皆様のご協力によりこのニューズレターが学会活動の充実に役立てるよう努めていきたいと考えています。

この号の編集は木内良行（大阪外国語大学）が、版下作成は東郷雄二（京都大学）が担当しました。